

# アカデミアと産業界が共創する 高齢社会の未来

IOGは「Chōju」と「Ikigai」を自己実現できる新たな価値を感じる地域コミュニティをスローガンに掲げて高齢社会の課題解決に取り組んでいます。

地域で行うアクションリサーチにおいても、研究の成果を社会実装する際にも、産業界とのパートナーシップが欠かせません。

アニュアルレポート2020の巻頭特集として、業種の異なる5社の方々をお招きし、それぞれの視点から「個人とまちのフレイル予防」、「IOGおよび他企業との連携への期待」という2つのテーマについて対談していただきました。



## 参加企業(氏名50音順)

大和ハウス工業株式会社 リブネスタウン事業推進部 東日本統括グループ **瓜阪 和昭** 氏

株式会社マルタマフーズ 副社長 **佐々木 宏** 氏

三井住友信託銀行株式会社 人生100年応援部 **谷口 佳充** 氏

キュービー株式会社 取締役上席執行役員 **濱千代 善規** 氏

イオン株式会社 顧問 **久木 邦彦** 氏

## IOG

機構長 **飯島 勝矢**

副機構長 **大月 敏雄**

客員研究員 **辻 哲夫**

## “Chōju”と“Ikigai”のある コミュニティのり・デザインに挑む

**飯島** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。IOG機構長の飯島です。この対談では、みなさんが産業界の視点から少子高齢社会における課題に対して、どのように活路を見出そうとしているのか。そして、アカデミアや異業種の企業とコラボレーションすることによって生まれる新しい世界への期待についてディスカッションしたいと考えています。まず、ご挨拶を兼ねて、私たちIOGのメンバーからひと言ずつコメントさせていただきます。

**大月** IOG副機構長の大月と申します。私は専門分野の建築・都市工学からまちづくりに取り組んでいます。高齢社会の影響について一例をあげると、従来の戸建て住宅は35歳くらいで購入して、終生その家に住み続けるのが当たり前でした。ところが

までは乗り切れません。飯島先生がスローガンに掲げられた“Chōju”と“Ikigai”のある社会をつくるのは、高齢社会の先進国である日本に課せられたチャレンジだと思っています。IOGが取り組んでいるテーマの中でも、まちづくりとフレイル予防はその最前線であり、国家的課題といえるでしょう。私たちが進める産学連携は、これからが正念場だと思っています。

**飯島** “Chōju”と“Ikigai”を自己実現できる新たな価値を感じる地域コミュニティづくりを簡単にいえば、コミュニティのり・デザインです。それは簡単ではありませんが、IOGはその先駆者として、産業界のみなさんとともに、アクションリサーチと社会実装を推進していきたいと考えています。続きまして、本日も集まりいただいた企業のみなさんから、ひと言ずつコメントをお願いします。

**瓜阪** 大和ハウス工業の瓜阪です。私たちは昭和40年代から50年代にかけて、ニュータウンと呼ばれる街を全国61カ所に造



現在は100歳以上の人口が8万人以上に達する長寿社会です。35歳の時に買った家のままで高齢者が快適に暮らすのは難しい。リノベーションや引っ越しが必要になるはず。同じ高齢者でも75歳と95歳ではかなり違いがありますが、その違いにまちづくりや行政サービスが応えられていません。IOGが多様な高齢社会について産官学で議論し、課題解決を目指す場として機能するのは、とても素晴らしいことだと思います。

**飯島** 私の専門は高齢医学ですが、75歳、85歳、95歳を高齢者として十把一絡げにはできません。もちろん年齢だけでなく、個人差もあります。これに対して、どのようなエビデンスを出していくのか、産業界を中心にした新しいまちづくりのモデルを構築していくのは大きな課題です。そこで、長年にわたり厚生労働省で政策に関わり、現在IOGの顧問として私たちと少子高齢化の問題に取り組まれている辻先生から一言お願いします。

**辻** 人生100年時代は、歴史的にも例のない未知の社会が到来することです。今までの延長線上にあるシステムや意識のま

ってまいりました。その多くで高齢化が進んでいるため、7年前から横浜市港南台の上郷ネオポリスの再生に取り組んでいます。最近では80歳前後でも元気な方が多いので、再生活動はまちに住む高齢者の方々が中心になって動いていただいているのが実態です。来年から800万人以上といわれる団塊の世代が後期高齢者に突入しますが、その力を活用しながら再生を進めたいと考えています

**佐々木** マルタマフーズの佐々木と申します。当社は約1000カ所の病院や介護施設から食事サービスを受託しています。現場を見て感じるのは、この数年の間に私たちがサービスを提供している高齢者の方々のフレイルが重度化して食事を食べられなくなっていることです。また、当社でも介護に携わる社員が急増しており、在宅の高齢者もフレイルが進行していることを痛感しています。私の地元でもコロナ禍で神社のお祭りができず、外出自粛で商店街のお店もシャッターが閉まっているなど、地域の交流が途絶えてしまいました。こうした状況が高齢者の方々

のフレイルを進めていると思われます。そこで、私たちは地域に住む人たちが一緒に食事をして、元気を分かちあえる場を提供する共食サービスの取り組みを始めました。アカデミアや異業種の方々には学ばせていただきながら、より良いものに進化させたいと思います。

**谷口** 三井住友信託銀行の谷口と申します。当社は信託を中心に事業を行っている金融機関です。人生100年時代を迎える中で、85歳でも95歳でも100歳になっても自分の意思決定ができることが“Ikigai”に繋がります。また、人生が豊かであることは、選択肢が多いということでもあります。わたしたちは高齢者の方々の豊かな人生を支えるために、後見や信託をはじめ豊富な選択肢をご用意しています。もちろん、認知機能が衰えてきた方の資産をお守りするの也是我们の重要な役割です。できるだけ多くの人に信託銀行の機能を活用していただき、豊かな人生100年時代を実現するお手伝いができればと考えています。



IOG  
機構長  
飯島 勝矢

**濱千代** キューピーで研究開発と医療事業を担当している濱千代です。昨年から食と健康プロジェクトでフレイル予防に取り組んでいます。私は20数年前に高齢化社会を見据えて、介護食の開発を会社に提案しました。しかし、介護食だけでは足りません。摂食機能の低下を防ぐには、買い物や調理、後片付けまで含めたトータルでの取り組みで高齢者の食に関わる問題を解決する必要があります。そこで、日本介護食協会を設立して、多くの食品会社と連携しながら介護食の認知浸透を促し、社会に広めてきました。いま進めているのは、介護食が必要になる手前で摂食機能の低下を防ぐための、サラダと玉子によるフレイル予防です。産学連携のネットワークにより同じ志を持つ企業を募って、高齢者の方に向けて多様性のある食を築きたいと考えています。

**久木** イオンの久木です。私たちは地域に根差した小売業として、常にお客様の暮らしへの貢献を考えています。日本全国にショッピングモールやスーパー、ドラッグストアなど数多くの店舗を持っていることは、私たちの大きな強みです。既に、この店

舗という顧客接点を活用しながら、メーカーの方々と一緒に地域のフレイル予防を進めています。数年前に当社の経営層を対象にしたセミナーで辻先生に講演していただき、全員がフレイルに関する認識を新たにすることも取り組みを加速しました。今はコロナの影響でイベントが開催できませんが、これからも食と運動と社会参加という三位一体のフレイル予防を店頭で実現していきます。

## まちのフレイル化を防ぐのは、 思い出が紡ぐ物語

**飯島** フレイルについては、一人ひとりの体の衰えだけではなく、まちのフレイル化も予防する必要があります。そのためには、住民の方々に何をどう伝えて行動変容を起こしてもらえばいいのか、そして地域がどう変わればフレイル化を防げるのかを考

えなければなりません。たとえば、筋肉の衰えを防ぐには体を動かしてもらう必要がありますが、高齢者の方が運動を日課にするのは至難の業です。でも、近所の知り合いと楽しく過ごしていたら1万歩も歩けた、みんなで食事したらたくさん食べられた、という環境があれば、意識しなくてもフレイルを予防できます。マルタマフーズさんは地域のコミュニティを活性化するために、神社カフェという取り組みを始められたそうですね。

**佐々木** 地元にある神社と地域住民との繋がりが年々薄れていくのを寂しく感じていました。でも、もともと神社は地域に暮らす人々が安心して自由に入出入りできる場所なんです。参道の横にある公園では若いお母さんたちが子どもを遊ばせています。でも、神社にお参りに来る高齢者の方との交流はありません。なんとか繋がられないかという思いから生まれたのが、神社カフェのアイデアでした。地域の経営者の方など、神社を支えている氏子の方々もちょうどフレイル予防の対象者となる年代なので、積極的に協力していただきました。



IOG  
客員研究員  
辻 哲夫

**飯島** 神社という場の着眼点が素晴らしいと思います。こうした活動を通じて、交流の場が広がっていくかもしれませんね。フレイル予防においても食、そして栄養はとても重要な役割を果たします。サラダと玉子で毎日の食事の質を向上させようというキューピーさんの戦略を聞かせてください。

**濱千代** サラダと玉子にフォーカスしたのは、まず野菜が免疫力の向上や血圧などの循環器疾患の改善に貢献するからです。噛むことで嚥下機能の低下も予防できますし、玉子を1日1個摂取すればタンパク質をはじめ不足しがちな栄養素を十分に補えます。この組み合わせはバランスがいいということで、さまざまなメディアでPRしましたが、私たちの思いはなかなか伝わりません。そこで地域を対象にしてマスへと広げるために、一昨年からイオンさんと店舗イベントによる実証実験に取り組んできました。健康プロモーションと商品をセットでお客様に訴求したところ、大きな反響がありました。一方通行のメディア戦略を反省



大和ハウス工業株式会社  
リブネスタウン事業推進部  
東日本統括グループ  
瓜阪 和昭氏

するとともに、店舗を通じたフレイル予防向け商品の提供に手応えを感じています。いま進めているのは、食肉や水産物、大豆など、さまざまな食品メーカーと提携した新商品の開発です。また、フィットネス系の企業と一緒に、栄養と運動をパッケージにした商品展開も考えています。

**飯島** スポーツ・フィットネス系の企業にも、高齢者の栄養と社会参加が充たされる環境を作ってほしいですね。高齢者が運動機能を維持するために、イオンさんが店舗で実施されている取り組みについてお話しください。

**久木** はい、まずショッピングセンターで行っているラジオ体操です。朝7時から始めて簡単なエクササイズをした後に、フードコートでゆっくりお茶を飲みながら談笑するのが日課になっている方が大勢いらっしゃいます。毎日続けるうちにコミュニティになるんですね。もう一つがモールウォーキングで、1周歩くと8000歩くらいになるので、天候に関係なく運動できると好評です。ドラッグストアで薬剤師による健康セミナーを開催して生活

習慣を変えるきっかけづくりをするなど、店舗に合わせた取り組みを行っています。

**飯島** 店舗で買い物をするだけでなく、運動と社会参加ができるのはいいですね。そうした個々のフレイル予防と合わせて、まちのフレイル化予防において重要なのは若い世代が暮らせるまちにすることです。そのために何をすべきか。まちの再生に取り組んでいる大和ハウスさんにお聞きします。

**瓜阪** 先程マルタマフーズさんのお話を聞いて、50年前にニュータウンを造った時に、小さな神社を建てておけばよかったと思いました。昔の村やまちには鎮守の森があって、お祭りなど世代を超えた人々が集まる機会がありましたが、ニュータウンには神社がありません。だから私たちは、人が交流する場ときっかけを作る必要があります。2019年にコンビニエンスストア併設型のコミュニティ施設「野七里(のしちり)テラス」をオープンした時は、多くの住民の方が積極的に運営に参加してくださいました。40

株式会社マルタマフーズ  
副社長  
佐々木 宏氏



年続いた夏祭りがコロナで中止になったので七夕祭りを企画したところ、高齢者の方々が裏山から900本もの笹を切り出してくださって、大いに盛り上がりました。子どもから高齢者まで、生き生きと暮らす姿を見せることが、若い世代の流入に繋がります。今後、リモートで働くことが定着すれば、土地が安く環境がいい郊外で暮らす若い世代が増えるでしょう。ネオポリス上郷から由比が浜までは車で15分なので、いつでもサーフィンを楽しめます。新しい暮らし方に対応したまちづくりを実現できれば、フレイル化することはありません。住民の方々にまちづくりへ参加してもらうことが、新しい“Ikigai”にもなります。ネオポリス上郷の再生事業では応援団の方が250名以上いて、私たちがいなくてもまちづくりが進んでいく地盤が生まれつつあります。

**大月** いろいろな団地の動向を見ると、場所によっては独立して出ていった子ども世代が、Uターンして戻ってくる場合があります。これは共働き世帯が子どもの面倒を親に見てもらいたいからで、まちのフレイル予防には非常にいいクスリです。引っ越

しを考えるタイミングとして多いのは子どもが小学校や中学校へ入学する時ですが、希望に合う物件が見つからなかった場合に、賃貸という受け皿も必要になります。もう一つ重要なのは、子ども世代が帰ってきたくるような思い出を持っていることです。そうした条件が満たされれば、若い世代が戻ってくるはずで

**谷口** 最近では中古住宅を購入してリフォームする若い方も多いので、金融機関としては資金面をサポートすることで、魅力的なまちづくりに貢献できます。将来的にリバースモーゲージを視野に入れるなら、リフォームは家の資産価値を上げることになりま

す。当社では、住宅ローンをお借入れいただいたお客様に遺言を無料で保管する「ハウジングウィル」というサービスを始めました。日本では、若いうちから遺言を用意するのは一般的ではありませんが、イギリスでは30歳から35歳の間に3分の1の人が遺言状を作成しています。購入した家の相続でトラブルが起きないように、万が一に備えることは大切です。これからも金融と

おかげで初年度は順調に離陸できたと思っています。それを加速していくために、みなさんがアカデミアや異業種と連携しながら、もっと温かい血の通った知を構築するために考えていること、アカデミアに期待することは何かをお話してください。

**瓜阪** 以前、横浜市から「ウィル」という電動モビリティをお借りして上郷ネオポリスの住民の方10人に利用していただきました。その結果、「ウィル」は一人乗りですが二人で使うツールという新しい用途が見えてきました。ご夫婦で外出するときに往路と復路で交代に乗れば、疲労は半分で済むので遠くまで行動範囲が広がります。買い物のときには荷物を載せることもできますし、会話しながら移動することでコミュニケーションの機会も増えます。構造や操作性についてご意見をいただくこともできました。いまここにいらっしゃるみなさんの商品やサービスについて、上郷ネオポリスでフィールドリサーチを行っていただければいいと思います。IOGの先生方からの学術的な裏付けがあれ

ため、閉塞的な食品業界においてブルーオーシャンになる可能性があります。新しい商品開発もIOGに集うみなさんと一緒に行えば相乗効果を期待できます。先程お話した神社カフェのある地域は、三井住友信託銀行さんの営業担当の方が回ってくださっています。安心を求めて神社に参拝する人が増えていますが、多くの方々は信託銀行を知りません。神社カフェのお客様に安心を提供するためにも、ぜひ協業できればと思っています。

**谷口** ありがとうございます。当社は支店が少ないので、いかに地域との繋がりを深めて信託を利用していただくかが課題でした。日本で信託法が定められたのは大正12年。今から100年ほど前になります。なぜ信託が必要なのかという問いに対して、判断能力が低下していく人に代わって財産を管理するためだと答えた当時の記録が残っています。そこに私たちの存在意義があり、そこに貢献していくことが使命です。高齢化社会の最先端となった日本で、信託というサービスを提供するために、産

で買物をするのも運動であり、社会参加なのです。当社は多くの顧客接点を持つ企業としてお客様の生の声に添えて、より良い商品やサービスを提供しなければなりません。それが一方通行にならないように、IOGの産学連携に基づくエビデンスを必要としています。

**飯島** 私たちが産学連携の場で議論し検討していることが、本当の答えなのかどうかはわかりません。社会実装のためには、しっかりとニーズの掘り起こしをすることが重要だと思います。

**大月** お話を聞いていて、高齢化社会に求められているのは、消費者ではなく生活者を支援するための商品やサービスなのだと感じました。これは企業単独では成立しません。アカデミアも同じです。ある課題のために、この現象のデータを取ってきて理論化するという単線的な発想では、地域を含めた生活者をとらえるのは難しいでしょう。団地や神社やショッピングモールなど、生活者は日常的にさまざまな場所に関わっています。フィールド



三井住友信託銀行株式会社  
人生100年応援部  
谷口 佳充 氏

キュービー株式会社  
取締役上席執行役員  
濱千代 善規 氏



イオン株式会社  
顧問  
久木 邦彦 氏

IOG  
副機構長  
大月 敏雄



信託を合わせたサービスを開発してお客様の資産を守り、安心して暮らせるまちづくりを実現したいと思います。

**辻** みなさんのお話を聞いて、個人とまちのフレイルを予防して、“Chōju”と“Ikigai”を実現するためには、地域住民と行政、産業界、われわれアカデミアも含めた社会全体の力が必要であることを再認識しました。まちをフレイル化させないためには多様性や人の交流、思い出が必要になる。それを突き詰めると、物語が要るということです。文学的な表現で恐縮ですが、まちの物語を作っていくことが求められているのだと思います。

## 消費者ではなく、生活者を支援する知の構築へ

**飯島** 昨年、私が機構長に就任してからIOGの産学連携の仕組みを3層構造にして、より多くの企業の参加と共同研究の活性化を目指しました。コロナの影響を受けながらも、みなさんの

ば、高齢者の方々は喜んで協力してください。新しいものを試してみたい方が大勢います。

**飯島** まさしく産学連携の醍醐味ですね。上郷ネオポリスをリビングラボとして実証実験を行い、アカデミアが成果をリリースしていくことでスムーズな社会実装を実現できる可能性があります。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

**佐々木** 私たちは早くから皆さんとコラボさせていただいています。大和ハウス工業さんは兵庫県三木市の緑が丘ネオポリスでも団地再生を進められていて、私たちがお手伝いした地域の交流会でフレイル予防をテーマにした際に、近所のイオンさんで買物をして、キュービーさんの「サラダクラブ」や介護食の「やさしい献立」をご紹介しました。住民の方々はイオンさんでこういう食品を買えば、フレイル予防できると知って喜んでくださいました。このように、さまざまな場所でみなさんと協業することによって、フレイル予防の必要性を広めていきたいと考えています。当社が進めている「共食サービス」は、これから形成されていく産業の

学連携のフィールドを生かしたいと考えています。

**濱千代** どんなにいい商品も、作っただけではその価値は限定的です。フレイル予防の機能を持つ食品も、ただ店頭に並べただけでは買ってもらえません。その価値を求めている人にきちんと提供できるシステムが必要です。しかし、それを産業界だけで構築するのは難しく、時間を要するでしょう。私が開発した介護食も介護食協議会を設立してアカデミアにもサポーターとして入っていただいた結果、大きな市場へと成長しました。IOGのように、産学連携の実績で社会的な信頼を得ている研究機関がリードすることで、より速く、より広く価値を伝えていけると考えています。

**久木** 最近、自治体の方から高齢者向けに移動販売をしてほしいという要望をいただくことが増えてきました。できる限りお応えするように努力していますが、実際にやってみると高齢者のみなさんがとても喜んでくださいます。移動の手段がなく、ショッピングセンターまで歩けない高齢者の方にとっては、移動販売

リサーチの領域を広げて、新たな知を構築していくことが私たちのミッションであることに思い至りました。

**辻** 企業の皆さんが作る優れた商品やサービスを広めることもIOGの役割です。フィールドリサーチで収集したデータでエビデンスを示せば、その優位性を明らかにすることができます。そのために必要なのが標準化と認証制度です。良いものを認証制度により差別化して社会全体に普及させていく。それがIOGの政策提言の土台になります。フレイル予防についても、まちづくりに関しても、認証制度を作ることがIOGに課せられた任務であると考えています。

**飯島** 皆さん本日はありがとうございました。この1年間、IOG2.0を標榜して産官学の連携を強化してきました。これからも産業界の方々の期待に応えられるように前進し続けます。卓越性のある総合知を産業界とアカデミアで構築するために、相互に刺激し合って魅力的なアクションリサーチに取り組みましょう。これからもよろしくお願いいたします。